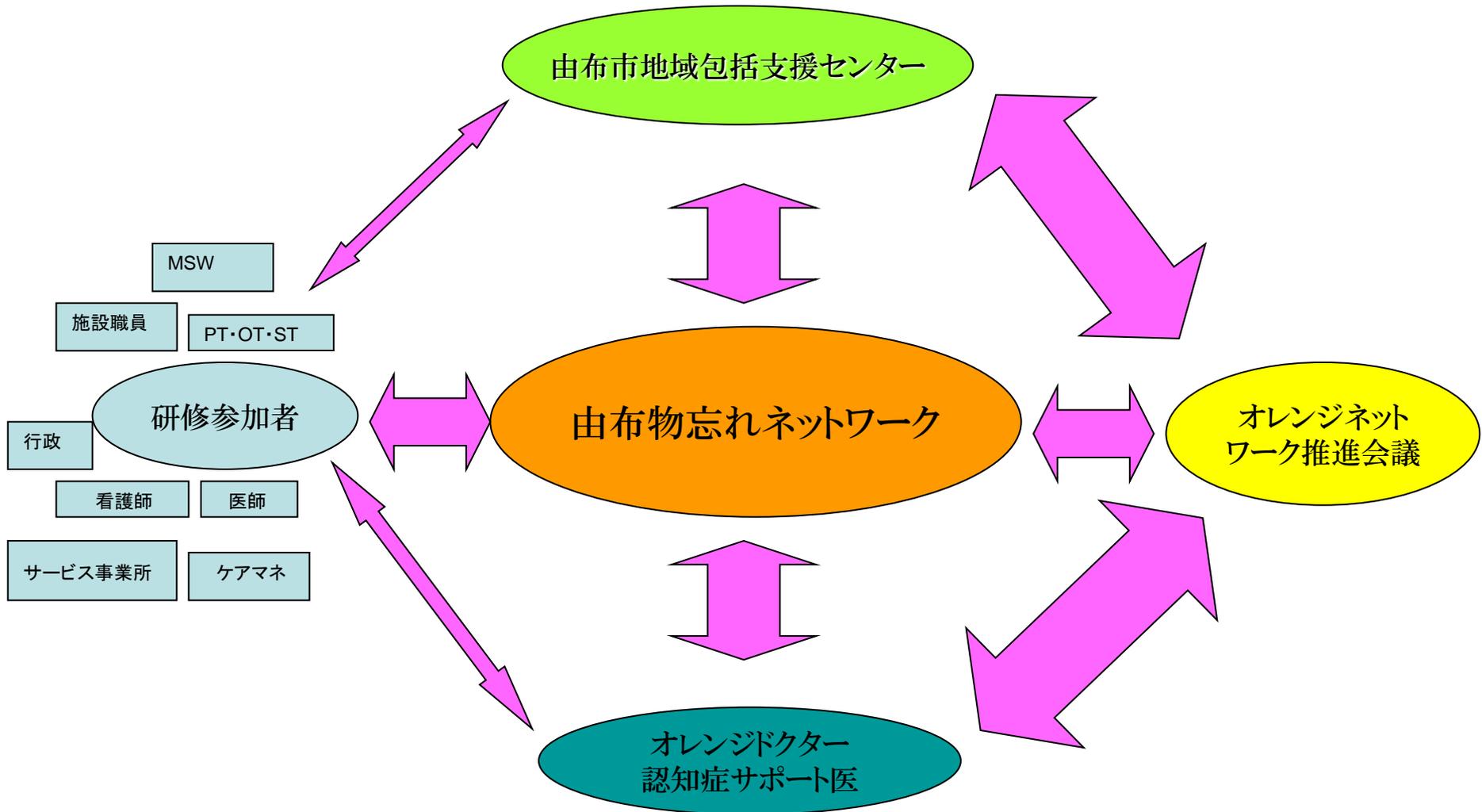




# 由布物忘れネットワーク体制図



## 地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例（様式）

①市区町村名	由布市
②人口（※１）	３５，７８７人（ ）
③高齢化率（※１） （65歳以上、75歳以上それぞれについて記載）	65歳以上 29.05%（10,396人）（ ） 75歳以上 16.49%（5,903人）
① 取組の概要	由布もの忘れネットワークは、医師や看護・介護等福祉専門職の質の向上を目的とした症例事例検討会・ネットワークの連携ツールとして使用するためのオレンジパスポートの作成、活用・専門用語の解説のための用語集、パンフレットを作成・早期発見のための地域に向けての啓発として一般市民公開講座の活動などの取り組みをしている。
⑤取組の特徴	医師・介護支援専門員・看護師・介護士のそれぞれの立場から認知症の症例事例を提出。研修会にはアドバイザーとして専門医の参加もある。身近にある問題を取り上げ会場内での意見交換は、壁の厚かった医師との関係も身近に感じられるようになり、また多職種間との隔たりもなくなることで、ネットワークの構築を可能にしていく。
⑥開始年度	平成21年12月より開始
⑦取組のこれまでの経緯	認知症患者の増加が顕著である。このように患者は増えているが認知症専門医は不足、かかりつけ医は認知症診断能力の不足という問題がある。そこで専門医、かかりつけ医、福祉等他職種間で連携を築くことが望ましいと、由布市では、かかりつけ医がキーパーソンとなり、由布市地域包括支援センターとともにネットワーク構築のため「由布物忘れネットワーク」を立ち上げた。 そして地域包括支援センターに事務局を置き、各職種メンバー20名を推進委員とし研修会の前月には、研修内容の検討等他の事前打ち合わせ会議を実施している。第1回の研修は平成22年1月に行い、平成25年4月現在で17回を数えた。
⑧主な利用者とな人数	医療・保健・福祉・行政等 参加人数は110人程度
⑨取組の実施主体及び関連する団体・組織	由布市在住の医師 大分郡市医師会 由布市地域包括支援センター
⑩市区町村の関与（支援等）（※２）	研修会の会場使用料等の助成
⑪国・都道府県の関与（支援等）（※３）	なし
⑫取組の課題	主治医が中心となって立ち上げたため福祉職の参画が少ない。介護と医療の相互連携を深めていくために介護・福祉関係者が垣根なく取り組めるような支援が必要。
⑬今後の取組予定	推進会議が主体となって認知症コーディネーターを養成していく
⑭その他	なし
⑮担当部署及び連絡先	電話0977-84-3111 福祉対策課福祉係（内線315）・健康増進課介護保険係（内線352）



- ※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を( )内に記載してください。
- ※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。
- ※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。

